

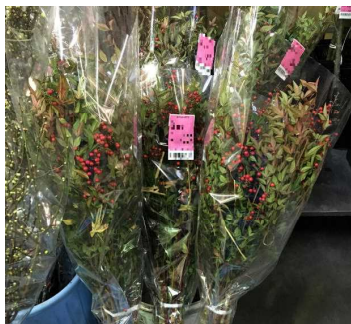
## 生花市場では正月商戦が本格化へ ～ 年末恒例の松市・千両市の開催で多くの賑わい ～

### 花き市場には正月向け装飾花材が勢揃い

2016年も残り10日を切りクリスマスが目前となりましたが、花き市場では年の瀬を迎えるにあたり早くも正月向けの装飾花材が卸売場や仲卸店舗などに勢揃いし、正月商戦が始まっています。

中でもこの時期ならではの花材である、松や千両、苔松苔梅、金銀塗り枝物、竹、餅花、しめ縄などは季節を感じさせ、一気に正月の雰囲気を漂わせています。その他、切り花も各産地が年末需要に合わせて出荷を行うため、生花市場は一年で最大の盛り上がりを見せます。本県からもシンビジウムやハナウメ、塗り物（ヤナギやツツジ）等が年末に向けて出荷の最盛期を迎えます。

赤バラを中心としたクリスマス需要は12月21日(水)がピークとなり、いよいよ12月23日(金)の市場販売からは正月向けの商戦が本格化します。



本県からも出荷される南天



「松竹梅」の鉢植え



正月商材が並ぶ仲卸店舗

### 年末恒例の『松大市』、『千両・苔松苔梅大市』開催

12月11日(日)の朝7時から東京都中央卸売市場の各生花市場にて『松大市』が行われ、正月装飾に欠かせない大小様々な松の競売が行われました。

今年は夏の高温干ばつや秋の長雨により主産地では立ち枯れや根腐れなどが発生したことから入荷量は平年よりも少なく、品薄により高単価での取引となりました。そんな中で、量販店などで販売されている東加工に使いやすいカラゲ松は近年需要が高まり引き合いが強まっています。

松大市の1週間後の12月18日(日)には『千両・苔松苔梅大市』も開催されました。今年の千両は実の付きやボリュームが良好で、各産地から潤沢な入荷があり、需要を上回る供給量となったことや松を始め11月までの切り花の相場が高かったことなどの影響に加え、多くの買参人や生花店等の締め日である20日の直前であったこと等が重なり買い控えられたため、厳しい販売状況となりました。

苔松・苔梅は、松や梅の古木や生木の枝等に苔が付着しているもので、長い時間を要する苔の繁茂の様子を日本人は昔から「子孫繁栄を願う想い」を重ねていると言われます。

今年は大ぶりの苔松が虫害等を受け入荷量が減少しましたが、使いやすいサイズの入荷量は確保されています。



千両の競り売りの様子



ショーケースに展示された松や千両



仲卸には門松や三光松など様々な松が揃う



2メートルを超える立派な苔梅